

コロナ禍の中で気づいた小さな支えあいエピソード【一覧】

数か月前までは、人と会い、おしゃべりし、交流することが当たり前の生活としていました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、私たちのこれまでであった普通の暮らしができなくなりました。

政府の緊急事態宣言により、「Stay Home」人との接触を減らし自宅で過ごすことが多くなり、緊急事態宣言解除後も、感染防止対策として政府からは「新しい生活様式」に切り替えることを求められています。

今だからこそ気づく、「普通の暮らしの幸せ」。

支えあいは、人が集まらなくても、おしゃべりできなくても、普通の暮らしの、日常にあるもの、と改めて感じる日々です。そのようなエピソードを、地域の皆さまとお話する中で耳にするようになりました。

今後、ほっこりするエピソードを「小さな支えあいエピソード」として掲載していきます。

「人を助けることは、自分を助けること」

ボランティア活動の相談に来所した方。

中国の四川出身、日本語を学び、仕事のために来日されました。

活動の内容は問わないので、人のためにできることをしたいと希望。

ボランティア活動を始める際に、ボランティア活動への参加動機を伺っています。

「人を助けることは、自分を助けること」と。

コロナ禍の下ですが、少しずつボランティア活動を再開しています。「新しい生活様式」で、皆さんが安心して、人のため、自分のため、地域のために、活動いただけるよう、お手伝いさせていただきます。



四谷地区の見守り協力員事業の協力員の方が、マスクでお困りの方へと作ってくださった布マスク。4月下旬に社協に寄贈しようとして東分室にご来所いただいたそうですが、あいにくコロナウィルスの感染拡大防止のための緊急事態宣言中で東分室は窓口を休止していました。しかし、東分室と隣り合っている四谷高齢者総合相談センターの皆さんが、写真①のように手作りマスクの配布に協力をしてくださったのです。

また、寄贈者の方へメッセージを！と、マスクを受取った方にメッセージカードの記入を呼びかけてくださいました。「お礼にと小さな子どもが書いたアンパンマンの絵」「入院中の母に使用させて下さい」「個性のある鮮やかなマスクですばらしい！」など、幅広い年代の方からのたくさんの感謝のメッセージであふれていました。

いただいたメッセージカードは社協から、寄贈者へお渡ししたいと思います。

マスクを寄贈していただいた協力員の方、想いをつないでいただいた四谷高齢者総合相談センターの皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

写真①



写真②



ボランティアさんからの報告。

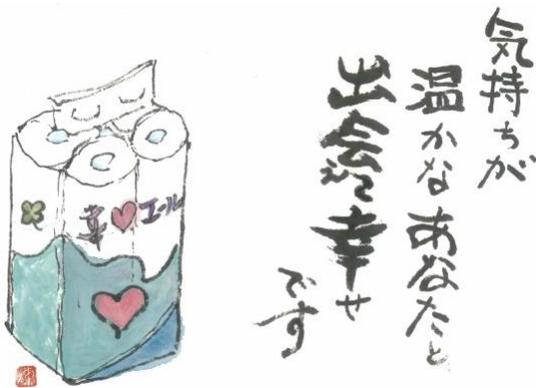
「トイレトペーパーが欠品で足りなくなってしまう、困っている。家族にも相談したが、すぐには来てもらえない。」と、一人暮らしの高齢者の方を訪ねた（※）際に、話を聞きました。後日、トイレトペーパーを入手することができたので、ご自宅へお届けしたらとても喜んでいただけました。

ボランティアさんからの報告で、小さな支えあいを感じました。

いろいろな生活用品が欠品になり、不安な気持ちを受け止めていただけたこと、ご近所同士での支えあいとしてお手伝いいただけたこと、ありがとうございます。

※地域見守り協力員事業

75歳以上のひとり暮らし、または75歳以上のみの世帯の方、希望する方を対象に、地域の支えあい活動として、地域見守り協力員（ボランティア）が月2回程度訪問する活動です。



絵手紙が得意な協力員の方からイラストを提供していただきました。

【社協職員編】

ボランティアさんから届く報告書。

「コロナの中、大変でしょうが、お身体に気を付けて」との一筆箋。地域の方からの気遣いのお言葉に、嬉しさと感謝の気持ちでいっぱいです。



【社協職員編】

「社協の皆さんへ 頑張りましょう！」と応援のお言葉とともに素敵なお花をいただきました。いい香りのする、ビタミンカラーのお花です。

